

「あしながチャリティー&ウォーク」チャリティー募金の寄贈について

明治安田生命保険相互会社（執行役社長 根岸 秋男）は、2015年2月3日に、子どもの健全育成に貢献することを目的とした「子どもの明日 応援プロジェクト」の一環として開催した「あしながチャリティー&ウォーク」におけるチャリティー募金約1,319万円をあしなが育英会に寄贈しました。

加えて、岩手県、宮城県、福島県が運営する東日本大震災遺児支援基金等に、全社で開催した「あしながチャリティー&ウォーク」におけるチャリティー募金の一部と、盛岡支社、仙台支社、郡山支社からの募金を合わせた約360万円を寄贈します。

「あしながチャリティー&ウォーク」は、親を亡くした子どもたちの支援に取り組むボランティア活動で、あしなが育英会の協力のもと、2014年9月～12月の4ヵ月間にわたり、全国64ヵ所で実施しました。当社役職員や家族、知人を中心とした約1万5千人がウォーキングに参加※するとともに、総勢約3万8千人がチャリティー募金を行ないました。

当社は、今後も本活動を通じて遺児支援に取り組み、子どもの健全育成および東日本大震災復興支援に貢献してまいります。

※東京海上日動火災保険株式会社の役職員やご家族等約2千人をはじめ、活動の趣旨にご賛同いただいた社外の方も参加

1. 寄付先と寄付金額

(1) あしなが育英会 (あしながPウォーク10への参加費を含む)	13,190,664円
(2) いわたの学び希望基金（岩手県）	1,280,844円
(3) 東日本大震災みやぎこども育英募金（宮城県）	1,291,972円
(4) 東日本大震災ふくしまこども寄附金（福島県）	1,032,952円

2. 寄付の目的

- (1) あしなが育英会への寄付を通じて以下の遺児支援に活用
 - ・ 東日本大震災遺児の心のケアを目的とした「東北レインボーハウス」の建設・運営
 - ・ 高校、大学、専門学校等へ進学を希望する遺児への奨学金貸与
 - ・ あしなが育英会の実施する海外留学生支援
- (2) 遺児支援基金等への寄付を通じて、東日本大震災被災地各県の遺児への資金援助に充当



目録贈呈の様子

（左から）執行役 荒谷 雅夫、あしなが育英会 副会長 藤村 修様

○「あしながチャリティー&ウォーク」について

当社の社会貢献活動の重点テーマである、子どもの健全育成に貢献することを目的とした「子どもの明日 応援プロジェクト」の一つとして、あしなが育英会協力のもと2011年度より実施。

本活動は、あしなが育英会の遺児支援活動「あしながPウォーク10」を発展させた当社独自の全社的な取組みで、役職員がウォーキングおよびチャリティー募金を通じて遺児支援の輪を広げる活動。

今年度はウォーキング参加の15,353人とチャリティー募金での参加をあわせ、38,371人が活動に参加（昨年度は37,816人の参加。うちウォーキング参加は12,307人）。

「あしながチャリティー&ウォーク」開催の様子



【東京地域】



【名古屋地域】



【大阪地域】

○あしなが育英会について

病気や災害、自死（自殺）などで親を亡くした子どもたちや、親が重度後遺障害で働けない家庭の子どもたちを物心両面で支える民間非営利団体。

高校、大学、専門学校等に通う遺児らへの奨学金貸与や、遺児の心のケアのための「レインボーハウス」運営などを実施。

○あしながPウォーク10について

あしなが育英会の遺児学生が中心となり、全国で開催しているボランティアウォークで、当社の各所属も自主的に参加。約10キロの道のりを歩き、日本と世界の遺児が抱える問題について考え、遺児への支援の輪を広げながら「フィランソロピー（やさしい人間愛）社会」の実現をめざす活動。「P」はギリシャ語「Philanthropy」の頭文字。

○いわての学び希望基金について

東日本大震災で親を失った子どもたちが、希望に沿った学校を卒業し、社会人として独り立ちするまでの支援を行なうために設置された岩手県の基金。

○東日本大震災みやぎこども育英募金について

東日本大震災で親を失った子どもたちが、安定した生活を送り、子どもたちの希望する進路選択を実現できるよう支援するために、宮城県が実施する募金。

○東日本大震災ふくしまこども寄附金について

子どもたちが震災前に抱いていたそれぞれの夢を諦めることなく、着実に前に進んでいくことができるよう長期的な支援を行なうために、福島県が実施する寄附金。